

独立行政法人 教員研修センター委嘱事業

平成20年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

成果報告書

プログラム名	小中学校及び特別支援学校特別支援教育コーディネーター養成におけるアドバンス研修プログラムの開発
特別支援教育を推進する専門性の高い特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、4つのスキル（アセスメント、巡回相談、プレゼンテーション、教材作成）の習得を機軸とした実践的な研修カリキュラムを開発する。	

研修期間：平成20年4月～平成21年3月

平成21年3月

大阪大谷大学教育福祉学部

1 カリキュラム開発のねらい

平成 19 年度実施の「盲・聾・養護学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」の実績を発展・継承することを趣旨として、小中学校のコーディネーター養成機能を加えた「小中学校及び特別支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」プログラムを企画した。

特別支援教育が本格実施になり、特別支援学校では、自校教育の一層の充実を図ることを前提としながら、地域の特別支援教育のセンター的な機能を担うことが求められている。また、市町村においては、各学校における特別支援教育の推進とともに、地域の関係機関（幼稚園、小中学校、特別支援学校、福祉、医療等）との連携・ネットワーク構築が課題となっている。このように特別支援教育体制の推進に係るコーディネーターの役割とその位置付けは進展しているが、求められる役割を発揮していくためには、さらなる専門性の向上が重要な課題となっている。

こうした課題に対応するために、大阪府においては平成 15 年度から、「盲・聾・養護学校地域支援コーディネーター実践研修」とその「フォローアップ研修」、平成 16～17 年度には「小中学校特別支援教育コーディネーター研修」とその後の「フォローアップ研修」が実施されてきた。その研修成果として、特別支援学校では地域からの要請に基づく支援機能が多彩に発揮されるようになってきており、小中学校では各市町村の特別支援教育に係るネットワークづくりのリーダーとなるコーディネーターの機能化が進んできている。しかしながら、小中学校及び特別支援学校における専門性の高いコーディネーターの養成は十分とはいえず、また、上記の研修受講者がさらにスキルアップをめざす研修の必要性からも新たな研修方略が必要となってきた。

このような現状と課題から、小中学校及び特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに対し、他の教員やコーディネーターをスーパーバイズできるより高度な専門性を有するコーディネーターを養成する研修プログラムの開発を考えた。そして、研修修了後にはその教員が中核となって専門性を伝達・波及していくシステムづくりをめざしたプログラムにしたいと考えている。

こうした高度な専門性向上を目的とした研修は、公平性や希望制を基本とする公的な(大阪府として実施する)研修の中で実施していくことは難しい。そのため、大学が主体となって研修カリキュラムを企画・実践・評価・改善してい

くプログラム開発は、重要な意義を持つものと考えられる。その成果は、今後の大学と教育委員会との連携研修モデルとして、他の地域への波及効果も期待できるものと考えられる。

＜平成 19 年度実施の研修プログラムからの発展・改善点について＞

	平成 19 年度研修プログラム	平成 20 年度研修プログラム
対 象	特別支援学校（盲・聾・養護学校） 教員 9 名	<u>小学校・中学校教員（11 名）及び 特別支援学校教員（12 名） 計 23 名</u>
研 修 機 軸	(1) アセスメントスキル (2) 巡回相談（教育相談）スキル (3) プレゼンテーションスキル	(1) アセスメントスキル (2) 巡回相談（教育相談）スキル (3) プレゼンテーションスキル (4) <u>教材作成スキル</u>
回 数	全 16 回	<u>全 18 回</u> ・教材作成スキルの 2 回を新設
研 修 内 容 （ 新 設 ）		・ <u>市町村または学校で実施すること を想定した「特別支援教育コーデ ィネーター研修プログラム」企 画・立案研修（新設：第 11 回）</u>
		・ <u>視覚支援教材の作成演習と協議</u> ◇ <u>演習：スケジュール表及びコミュ ニケーションボードの作成</u> ◇ <u>情報交換：授業に役立つ資料・プ リントの工夫・開発に関する 情報交換（新設：第 5, 6 回）</u>

2 研修内容・項目について

専門性の高い小中学校及び特別支援学校特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、身につけるべき必要な知識・技能の機軸を次の 4 つに集約し、少人数制で実践的に研修を進めた。

※別紙 1 に全 18 回の研修日程・内容・講師等の一覧を示した。

- (1) 障害のある子ども一人一人のニーズを把握し、適切な指導計画を作成・実施・評価するための「アセスメントスキル」（計5回の研修で実施：7, 8, 9, 10, 18回）
- ①演習：WISC-Ⅲ検査の実施・解釈スキル演習
 - ②演習：K-ABC検査の実施・解釈スキル演習
 - ③実習：検査の実施
 - ④演習：検査の実施・解釈のスーパーバイズ演習
 - ⑤演習：検査結果の報告書作成演習
- (2) 校内及び地域の巡回相談・教育相談を担当するための「巡回相談スキル」（計7回の研修で実施：2, 3, 11, 13, 14, 17, 18回）
- ①実習：保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校への巡回相談実習
（大学教員に同行して、巡回相談を担当し、大学教員からスーパーバイズを受ける実習研修）
 - ②演習：模擬校内委員会（事例検討の進め方）
 - ③演習（実習）：巡回相談報告書の作成
- (3) 幼稚園・小中学校等の研修を担当するために必要な「プレゼンテーションスキル」（計5回の研修で実施：4, 12, 15, 16, 18回）
- ①講義：プレゼンテーションの意義・活用・倫理
 - ②演習：わかりやすい伝え方、説明の仕方スキル（模擬講義・演習）
 - ③演習：興味を引くプレゼンテーション資料作成の実際
（パワーポイントの活用・応用、動画・音効果の活用等）
 - ④討議：プレゼンテーション資料、教材（スライド・コンテンツ）の共有について（著作権等について）
 - ⑤演習A：学校種別等における特別支援教育の紹介プレゼンテーション
（通常の学級での特別支援、特別支援学級での取組、通級指導教室での取組、各特別支援学校の概要と取組：知的障がい、肢体不自由、病弱、視覚障がい、聴覚障がい）
 - ⑥演習B：障がい種別の理解と支援についてのプレゼンテーション
（LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、知的障がい、肢体不自由、病弱、視覚障がい、聴覚障がい等の理解と支援）

(4) 子どもの実態とニーズに対応した、指導・支援に役立つ「教材作成スキル」(計3回実施:5,6,11回)

①講義:教材づくりの考え方とその実際

②演習:視覚支援教材①:スケジュール表(作成演習・活用に関する協議)

③演習:視覚支援教材②:コミュニケーションボード(作成演習・活用に関する協議)

④情報交換:授業に役立つ資料・プリントの工夫・開発に関する情報交換
(算数支援教材、国語支援教材、ソーシャルスキル支援教材等)

⑤討議:「特別支援教育と教材作成スキルについて」

これら4つのスキルを全般的に研修することを前提としながら、受講者のニーズに応じて中心となるコースを選択し(アセスメントスキルコース、教育相談(巡回相談)スキルコース、プレゼンテーションスキルコース、教材作成スキルコース)、個人の目標に即した研修計画を立てて、自己研修のP-D-C-Aのサイクルに基づいて研修を進めていった。

以上の研修内容に加えて、第11回研修において、「特別支援教育コーディネーター研修プログラムの企画・立案」研修を実施した。その理由は、本アドバンス研修修了者は、市町村または学校における特別支援教育コーディネーターのリーダーとしての役割が期待されていることから、研修プログラムの企画・立案力は欠かせないスキルであると考えた。そこで、各自が所属する市町村や学校で実施される「特別支援教育コーディネーター養成研修」を想定した研修プログラムを作成する演習内容を追加した。

* 別紙2に個別の研修計画の実例、別紙3に研修プログラムの一例を示した。

3 研修の実施形態について

本研修プログラム受講者は、大阪府のコーディネーター養成研修を修了し、すでにコーディネーターとしての役割を一定担っている人たちである。すなわち、基礎スキルを有している上に、さらにスキルアップをめざしたアドバンス研修(上級研修)の位置づけであることから、本研修の実施形態は、演

習・実習・討議を中心に構成している。

なお、巡回相談研修については、大学と幼稚園、小学校、中学校、高等学校とが連携し、大学教員が担当する通常の巡回相談に、本研修（実習）を重ねて実施することの了解を得て進めてきた。全 18 回の実施形態は、次の通りである。また、本研修プログラムは、年間を通した研修として位置づけて、各回の研修報告や研修評価の提出を求めた（別紙 4：研修アンケート）。

回	日程（会場）	実施形態
1	研修オリエンテーション	講義・討議
2・3	巡回相談スキル研修	巡回相談実習
4	プレゼンテーションスキル研修	講義・演習
5・6	教材作成スキル研修	演習・実習
7・8	アセスメントスキル研修	演習・実習
9・10	アセスメントスキル研修	講義・演習・実習
11	研修プログラム企画・立案演習、模擬 ケース会議（巡回相談、教材作成スキル） 中間オリエンテーション	演習・討議
12	プレゼンテーションスキル研修	講義・演習
13・14	巡回相談スキル研修	巡回相談実習
15・16	プレゼンテーションスキル研修	講義・演習
17	巡回相談スキル研修	巡回相談実習
18	プレゼンテーションスキル研修、 巡回相談スキル・アセスメント研修、 研修総括	講義・演習・討議

4 研修の実施方法、進め方、留意すべき事項について

(1) 研修の実施方法

① 大学の実施体制について

研修の実施における学内体制としては、特別支援学校教諭や大阪府教育センター特別支援教育担当指導主事としての経験をもち、特別支援学校や幼稚園、小中学校等の現職教員に対する指導経験が豊富な准教授が中心となった。発達に遅れのある幼児児童の教育プログラム開発の経験をもつ教授や発達相談の経験をもつ専任講師は、行動観察やアセスメントの指導を担当し、プレゼンテーションスキル研修においては、情報教育やプレゼンテーションスキルに造詣が深い准教授の 2 名が指導にあたる等、大学内のチームプロジェクトとしての体制で取組を進めた。

②大学と教育委員会の連携及び研修会場

毎回の研修会には大阪府教育委員会指導主事や、大阪府教育センター指導主事が参加し、研修内容や進め方についての意見交換を相互に行った。

研修会場については、大学を基本としながら、計 11、15、16 回の研修を大阪府教育センターで、巡回相談研修については、保育所巡回相談計 2 回、幼稚園巡回相談計 6 回、小学校巡回相談計 3 回、中学校巡回相談計 2 回、高等学校巡回相談計 2 回をそれぞれの学校を会場に実施した（各個人としては 3～4 校園の巡回相談研修に参加した）。

(2)研修の進め方について

- ①大学と大阪府教育委員会の担当者が協議して、アドバンス研修として必要な内容や要素を選定した。大学の研修計画の趣旨を踏まえて、大阪府教育委員会として主体的な連携・活用の在り方が検討され、双方の主体性が融合された研修カリキュラムの開発・実践・評価・改善を進めることになった。
- ②研修参加者の応募については、大阪府教育委員会から学校長に応募要項を配布し、23 名の参加が決定した（校長推薦）。
- ③計 18 回の単発研修でなく、一年間の継続研修としての位置づけと、毎回の評価を計画的・継続的におこなった。
- ④研修の評価と改善については、研修企画者としての評価、受講者による評価、受講者を派遣する管理職(校長等)としての評価の観点で実施した。
- ⑤全研修修了者 23 名に、研修修了証を授与した。
- ⑥全研修修了後に受講者による「個別の研修計画」の自己評価を実施した。
- ⑦事後評価として、6 ヶ月後、1 年後に学校及び本人にアンケート調査を実施する(予定)。

5 研修成果について

(1)研修の実施日程・内容・評価

<第 1 回研修>

①日 時 平成 19 年 5 月 26 日(月) 14:00～17:00

②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
14:00～14:15	あいさつ 大阪大谷大学より 大阪府教育委員会より	大阪大谷大学 学 長 笠井 高芳 大阪府教育委員会事務局 教育振興室 支援教育課 参 事 幸島 淳
14:15～14:45	研修講師及び研修者等の紹介	大阪大谷大学 教育福祉学部 学部長 岡 佐智子 教 授 岡崎 裕子 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
14:45～15:00	休 憩	
15:00～15:50	講義(1):オリエンテーション ①アドバンス研修の目的と内容について ②研修の進め方と評価について ③個別の研修計画の作成について	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
15:50～16:50	講義(2) 「特別支援教育コーディネーターに 求められる専門性と課題」	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

第 1 回研修は、研修オリエンテーションとして、研修スタッフと研修受講者の自己紹介、及び、研修の目的、内容、期待する成果、研修後の役割等について講義形式の研修を行った。本研修を進めていく上で、研修の計画(Plan)、実践 (Do)、評価 (See) プロセスを明確にするために、個別の研修計画を作成することを課題として提示した。この個別の研修計画については、第 1 回の研修日から 2 週間以内に全員 (23 名) の分が提出された。別紙 2 に実例を示した。習得の最優先課題 (◎) として設定されたスキルは、アセスメントスキル 11 名、巡回相談スキル 13 名、プレゼンテーションスキル 10 名、教材作成スキル 9 名であった (各々が 1～2 つのスキルに◎を記していた)。

また、本研修は、モデルカリキュラム開発プログラムであることから、第 2 回研修からは研修評価アンケートを実施する趣旨について説明した。

<第2・3回研修>

①日 時 平成20年6月16日(月) 9:00～17:00
 6月24日(火) 9:00～17:00
 7月1日(火) 9:00～17:00

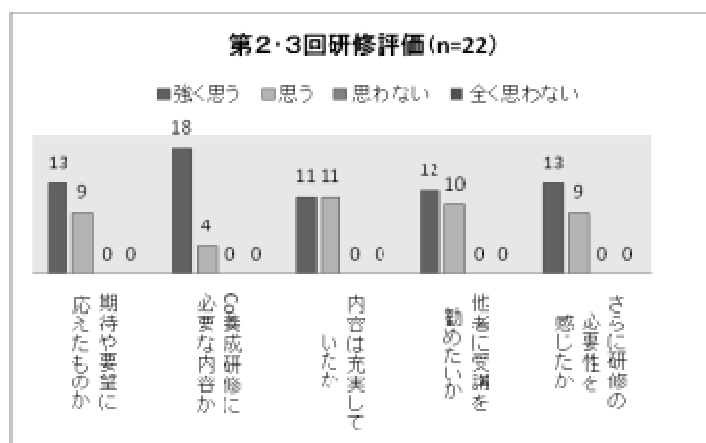
②会 場 ○○市立○○幼稚園(3園)

③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
9:30～10:00	あいさつ ○市教育委員会より ○市立幼稚園長より 大阪府教育委員会より	○市教育委員会 指導主事 ○市立幼稚園 園長 指導主事 河上 弘子
10:00～12:00	保育参観	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～14:15	教育相談への打ち合わせミーティング ①相談研修の役割分担 ②事例の検討	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
14:15～16:15	<相談スキル実習> 教育相談	大阪府教育委員会支援教育課 総括主査 矢木 克典 指導主事 河上 弘子
16:15～16:50	研修者ミーティング ① 相談研修の振り返りとまとめ	
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

大学と○市教育委員会が連携し、幼稚園巡回相談を3日間に分けて実施した。巡回相談の流れとしては、午前中に保育参観、午後から事例検討会で相談実習を行い、終了後に同行した大学教員等から、相談に関する助言や反省点などが指摘された。研修評価アンケートの結果は次の通りであった。体験実習であったことから、充実感の高い研修になったと考えられる。研修受講者の感想としては、「早期の気づきと早期の支援体制の必要性を実感した」「観察の観点を整理することができた」「保護者との連携や保健センターとの連携の重要性を実感した」等が多く出され、「小学校への連携の在り方」についての意見交換もできた。



<第4回研修>

①日 時 平成20年7月15日(月) 14:00～17:00

②会 場 大阪大谷大学 マルチメディア教室

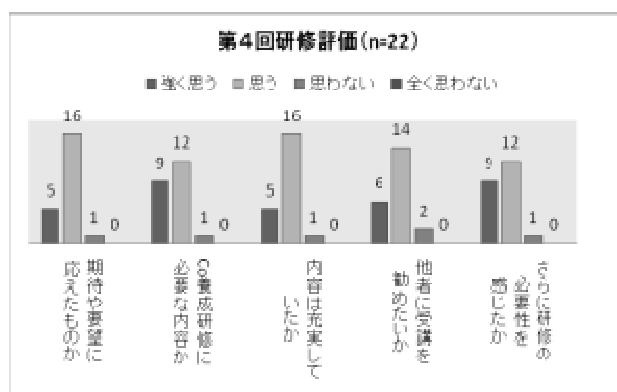
③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
14:00～14:05	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会 指導主事 貴志 英彦 大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
14:05～14:35	講義「プレゼンテーション論」 ◇プレゼンテーションの意義・活用・倫理 ◇効果的なプレゼンテーションについて	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 開沼 太郎
14:35～14:45	休 憩	
14:45～16:10	演習「プレゼンテーションスキル演習」 ◇プレゼンテーションの基礎・応用スキル ◇プレゼンテーションの作成演習 ・動画の取り込みスキル ・効果的なプレゼンテーションスキル等	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 金川 廣一郎
16:10～16:20	移 動	
16:20～16:50	討 議 「特別支援教育コーディネーターに 求められるプレゼンテーション力とは」	大阪大谷大学 教育福祉学部 教 授 岡崎 裕子 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

プレゼンテーションスキル研修の第1回目として、意義・活用・倫理に関する基礎知識に関する講義と、プレゼンテーションのための各種効果、動画の取込等のスキル演習を行った。また、著作権や個人情報の扱い等についても配慮の仕方について説明した。

研修評価アンケートの結果は次の通りであった。研修受講者の感想としては、「プレゼンテーションの意義と効果的な示し方が理解できた」「パワーポイント操作のスキルアップができた」「作成したプレゼンテーションスライドの指摘が参考になった」等の感想が多かった。全体的に、プレゼンテーションスキルは、コーディネーターの役割として重要なスキルであることを改めて認識したものと考えられた。



<第5・6回研修>

①日 時 平成20年8月19日(火) 9:00～17:00

②会 場 大阪大谷大学

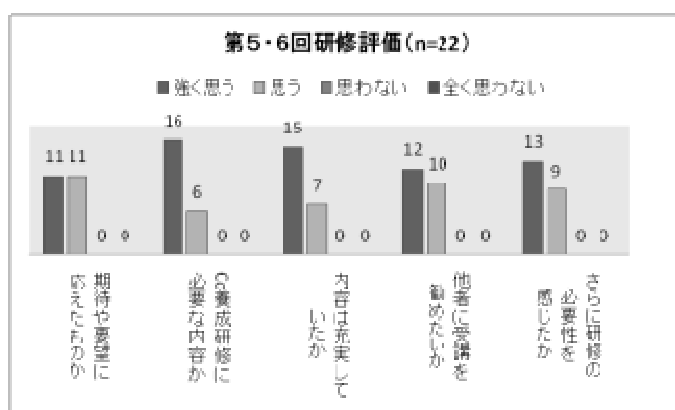
③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
9:00～9:15	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会 支援学級 G 指導主事 河上 弘子 大阪大谷大学 教育福祉学部 岡崎裕子・小田浩伸
9:15～12:00	演習1：視覚支援教材の作成と活用 ◇作成演習①スケジュール表 ②コミュニケーション・ボード ◇協議：視覚支援教材の活用の実際	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
12:00～13:00	休 憩	
13:00～15:00	演習2：学習教材の紹介と活用 ◇教科指導（国語・算数など）で用いる教材 ◇ソーシャルスキル指導で用いる教材 等	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
15:00～15:15	研究協議・情報交換 「特別支援教育と 教材作成スキルについて」	大阪大谷大学 教育福祉学部 教 授 岡崎 裕子 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
15:15～16:45	事務連絡	

④研修評価

教材作成スキル研修として、午前（第5回）は、視覚支援教材としてスケジュール表とコミュニケーションボードを実際に作成する演習と、その活用方法についての協議を行った。午後（第6回）は、各学校で用いている学習教材を受講者が持ち寄り、特別支援教育に役立つ教材の紹介と活用の実際について情報交換協議を行った。

感想としては「教材のアイデア等、自分が気づかないものもあり、有効な教材を共有できた」「教えていただいたことを現場に合わせて応用していきたい」「教材についての研修を、コーディネーター研修や校内研修にも取り入れていきたい」という内容が多かった。教材のアイデアやその活用を、校種を超えて共有する有効性と、地域の研修に取り入れる必要性が実感されたようであった。



<第7・8・9・10回研修>

①日 時 平成20年8月27日(水) 10:00～17:00 (第7・8回)
8月28日(木) 10:00～17:00 (第9・10回)

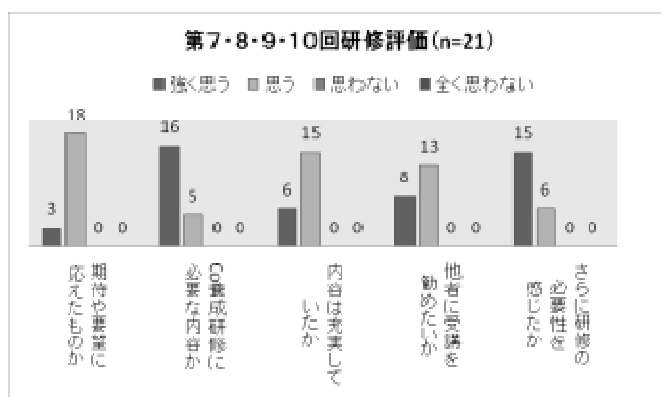
②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

回	日 時	内 容	講 師 等
5 ・ 6	8月27日(月) 10:00～17:00	① 特別支援教育における ・アセスメントの意義と方法(講義) ・アセスメント法(行動観察、検査、情報収集) ② WISC-Ⅲの概要と実際(演習・実習) ・WISC-Ⅲの概論 ・検査場面での行動観察演習 ・検査技術演習(新しく学ぶ人への指導) ③ WISC-Ⅲの結果の整理と解釈 ・プロフィール作成演習及び解釈演習 ④ 指導への活用について(討議) ・個別の指導計画にどう活かしていくか	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
7 ・ 8	8月28日(火) 10:00～17:00	① K-ABCの概要と実際(演習・実習) ・K-ABCの概論 ・検査場面での行動観察演習(ビデオ) ・検査技術演習(新しく学ぶ人への支援実習) ② K-ABCの結果の整理と解釈(演習) ・プロフィール作成演習及び解釈演習 ③ 個別の指導計画への活用について(演習) ④ 個別の指導計画の意義と活用 ⑤ まとめ:特別支援教育に関する情報交換	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸

④研修評価

アセスメント演習として、2日間(4回研修分)でWISC-ⅢとK-ABC検査の実施・解釈・指導への活かし方について研修を実施した。また、検査を新しく学ぶ人への支援演習も行い、支援する立場からスキルアップを図った。受講者に個人差はあるものの、実態把握の方法にスキルアップが必要であることは、研修評価アンケートからも確認された。感想としては、「実際の授業や指導計画への活かし方について考えていきたい」「事例を積み、スーパーバイズを受けるようにしたい」という内容が見られた。地域支援担当者として不可欠なこのスキルを、継続的・系統的にスキルアップしていく大切さを実感した。



<第 11 回研修>

①日 時 平成 20 年 9 月 1 日(月) 14:00～17:00

②会 場 大阪府教育センター

③日程・内容

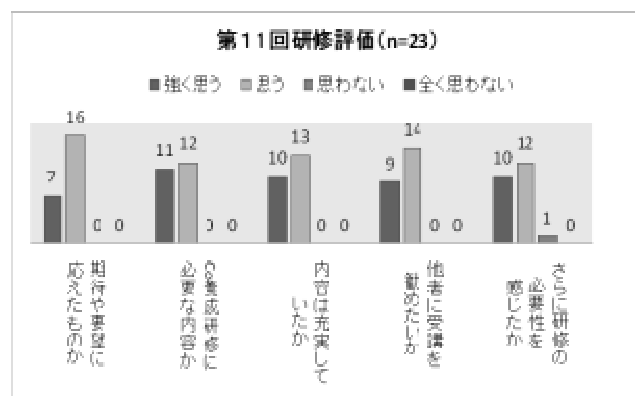
時 間	内 容	講 師 等
14:00～14:10	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育センター 室長 加藤 典夫 大阪大谷大学教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
14:10～15:10	演習 1 「ケース会議の進め方」 ◇小学校におけるケース会議（事例検討） ◇手続き（KJ法＋ランキング法） ◇支援の優先順位を考える ◇中・高等学校との連携について	大阪大谷大学教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 大阪府教育センター 指導主事 南部 潔
15:10～15:40	演習 2 「特別支援教育コーディネーター 研修プログラムの企画・立案」 ◇小中学校コーディネーター研修プログラム ◇市町のコーディネーター研修プログラム ◇特別支援学校コーディネーター研修プログラム	大阪大谷大学教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
15:40～15:50	休 憩	
16:00～16:50	研究協議 「本カリキュラムの中間振り返り及び 特別支援教育に関する研究協議」 ①今までの研修内容と今後への情報交換 ②検査結果報告書と検査年齢補正法について ③学校・地域における特別支援教育の課題 等	大阪府教育委員会 指導主事 貴志 英彦 大阪大谷大学教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

演習 1 では、コーディネーターとして小中学校等への支援を想定し、小
学校の模擬校内委員会形式で事例検討演習を討議形式で行った。また、地
域支援の現状と課題、専門性向上のあり方について討論を行った。

研修評価アンケートと感想からは、事例検討の進め方（演習）の時間が
十分にとれなかったことを残念に思っている人が多く、再度同様の内容の
研修を望む声が多かった。時間配分や焦点化への工夫の必要性を痛感した。

また、地域や学校支援のコー
ディネーターとして活動するに
あたり、校内支援のための研修
企画や各校との連携の構築にお
ける課題についても共通理解が
できた。



<第 12 回研修>

①日 時 平成 20 月 10 月 6 日(月) 14:00～17:00

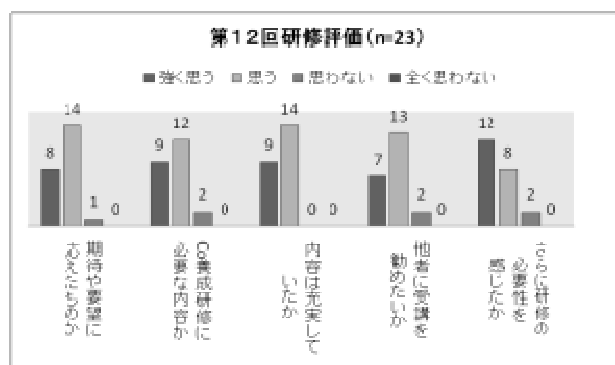
②会 場 大阪大谷大学 マルチメディア教室

③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
14:00～14:10	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会支援教育課 指導主事 貴志 英彦 大阪大谷大学 小田 浩伸
14:10～15:00	演習・実習 1 「新しいプレゼンテーション機能」 ◇PowerPoint2007 の便利な新機能 ◇プレゼンテーションの応用	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 金川 廣一郎
15:00～15:10	移 動	
15:10～16:00	講義・実習 2 「プレゼンテーションの応用技能」 ◇BGM・効果音の入れについて ◇各種効果の操作スキル(CD 等からの取込) ◇効果的なプレゼンテーションスキル	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 開沼 太郎
16:00～16:15	休 憩 ・ 移 動	
16:15～16:55	演習「プレゼンテーション演習」中間発表 ◇アスペルガー症候群の理解と支援 発表；高機能自閉症・アスペルガー症候群 担当グループ	大阪大谷大学 教育福祉学部 岡崎 裕子・小田 浩伸 石川 慶和 大阪府教育委員会支援教育課 指導主事 貴志 英彦
16:55～17:00	事務連絡	

④研修評価

プレゼンテーションスキル研修の 2 回目で、作成スキル演習（各種効果：音効果を中心に）と、プレゼンテーション演習を行った。演習では「高機能自閉症・アスペルガー症候群担当グループ」によるモデルプレゼンテーションを行った。モデル発表者のプレゼンテーションを基に討論を行い、スライドにおける文字の大きさや配置の仕方、ポイントを絞った発表の仕方等の話題についての意見交換等を行った。研修評価アンケートと感想からは、このスキルアップへのニーズが高まってきていることが推察され、特に、プレゼンテーションの対象を意識した伝え方（情報提供の仕方）の工夫を意識的に行っていくことの重要性を再確認できたものと考えられる。また、スライド作成スキルの向上が確



認された。

<第 13・14 回研修>

①日 時 平成 20 年 11 月 18 日(火) 10:00～17:00

時 間	内 容	講 師 等
10:00～10:30	あいさつ・オリエンテーション 府立〇〇高等学校長より 府立〇〇高等学校の実践紹介 (相談対象生徒の概要説明)	府立〇〇高等学校 校長 〇〇〇〇 教諭 〇〇〇〇 大阪大谷大学・大阪府教育委員会
10:40～12:20	授業参観(2 限目: 100 分授業)	授業参観 6 教室(うち体育グラウンド1) ※他の授業の参観も可
12:20～13:05	昼食・休憩	
13:05～13:50	授業参観(3 限目)	授業参観 4 教室(うち体育グラウンド1)
14:00～14:50	相談支援協議 「事例検討にむけた事前協議」 * 研修受講者による事例検討準備会議	大阪大谷大学 教育福祉学部 小田 浩伸・石川 慶和 大阪府教育委員会支援教育課指 導主事 貴志 英彦
15:00～16:40	事例検討会 「高校教職員との事例検討会」	大阪府教育センター支援教育研究室 指導主事 塩谷 謙二
16:40～17:00	相談研修の振り返り・事務連絡	

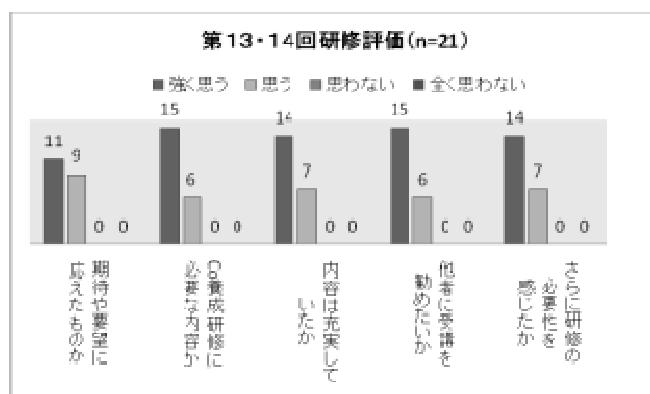
②会 場 大阪府立〇〇高等学校

③日程・内容

④研修評価

大学と高等学校が連携し、高等学校における巡回相談実習を実施した。巡回相談の流れとしては、午前と午後に授業参観(計 10 教室)を行い、午後から相談支援協議として事例検討相談実習を行った。研修終了後には、大学教員等から、相談に関する助言や反省点などが指摘された。

こうした高等学校への本格的な巡回相談は、全員が初めての体験であったことから、高等学校の特別支援の現状と課題を考える貴重な機会となった。研修評価アンケートや感想には、「高校との連携、高校への支援を考える時期である」「早期支援だけでなく、小・中・高等学校までつないでいく連続的支援の重要性をさらに強く感じた」という内容が見られた。特別支援学校と高等学校との連携のあり方についても意見交換され、特にソーシャルスキ



ルと就労支援の必要性について共通認識できたことが大きい。

<第 15・16 回研修>

①日 時 平成 19 年 12 月 26 日(金) 10:00～17:00

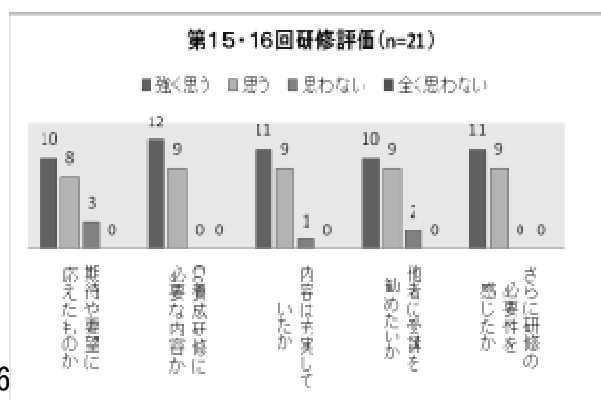
②会 場 大阪府教育センター

③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
10:00～10:10	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育センター 室長 加藤 典夫 大阪大谷大学 小田 浩伸
10:10～12:00	演習・発表「プレゼンテーション演習（１）」 ◇小・中学校の特別支援学級について ◇通級指導教室について ◇通常の学級における支援の実際について ◇視覚、聴覚、知的障がい・肢体不自由・病弱の支援学校について	大阪大谷大学 教育福祉学部 教 授 岡崎 裕子 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和 大阪府教育委員会 指導主事 大阪府教育センター指導主事
12:00～13:00	昼食・休 憩	
13:00～16:30 (休憩 10 分 含む)	演習・発表「プレゼンテーション演習（２）」 ◇発達障がい等の理解と支援について * LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、知的障がい、肢体不自由、病弱、視覚障がい、聴覚障がい	大阪大谷大学 教育福祉学部 岡崎 裕子・小田 浩伸 石川 慶和 大阪府教育委員会 大阪府教育センター
16:30～16:50	総括協議「プレゼンテーションスキルの 意義と研修のあり方について」	大阪大谷大学 教育福祉学部 岡崎裕子・小田浩伸・石川慶和 大阪府教育委員会 指導主
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

プレゼンテーションスキル研修の 3 回目で、各校種別の紹介プレゼンテーションと、障がい（視覚、聴覚、知的障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい）の理解と支援に関するプレゼンテーション演習を行った。午前・午後の研修として実施したが、全員のプレゼンテーションやスキルアップのための意見交換の時間を十分に取ることができなかった。研修評価アンケートや感想においても時間の制約についての意見が多く、この点については、時間の設定を再検討する必要性が残された。また、発表の仕方については、聴講者が分かりやすい言葉の使用や話し方、興味が高まるスライド作成が必要で、コーディネーターの資質とスキルとして重要な要素になることが確認された。個人情報扱いについても情報交換で



きた。

<第 17 回研修>

①日 時 平成 20 年 11 月～平成 20 年 3 月のいずれかの巡回相談

②会 場 保育所・幼稚園・小中学校への巡回相談

〇〇〇高等支援学校へ見学・参観

③日程・内容（例）

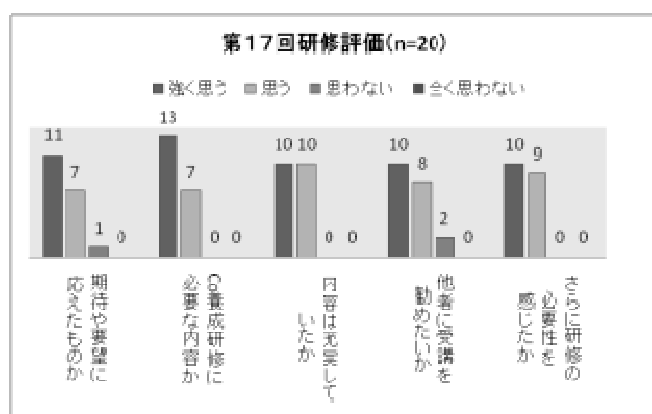
時 間	内 容	講 師 等
9:30～10:20	小学校の巡回相談研修（１） （低学年の授業参観）	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
10:20～11:10	小学校の巡回相談研修（２） （高学年の授業参観）	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
11:10～11:20	休 憩	
11:20～12:00	低学年の教育相談（事例検討会）	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
12:00～12:40	高学年の教育相談（事例検討会）	
12:40～13:00	全体のまとめ	

④研修評価

第 17 回研修は、平成 20 年 11 月～平成 21 年 3 月の間に行われる大学教員が行っている巡回相談に 1 回以上同行して、巡回相談実習を行うこととした。結果としては、保育所 2 カ所、幼稚園 2 園、小学校 2 校・中学校 2 校・高等支援学校 1 校で巡回相談実習または見学・参観実習を実施した。複数回数の巡回に参加した受講者もいた。校種については、研修者個人の課題に応じて選択可能としたが、保育所、幼稚園、高等支援学校を希望する人が多かった。

研修評価アンケートと感想からは、巡回相談の経験を積むことの大切さと、難しい事例については、すぐにアドバイスを受けることができるシステム構築を望む考えが多くだされていた。また、保育所への巡回相談では、「0 歳児の行動観察から早期の気づきと早期支援の必要性を実感した」という感想がみられた。

巡回相談における記録の取り方や報告書作成の仕方（様式や分量）についての研修の必要性



も示された。

＜第 18 回研修＞

①日 時 平成 21 年 2 月 17 日（月）14:00～17:00

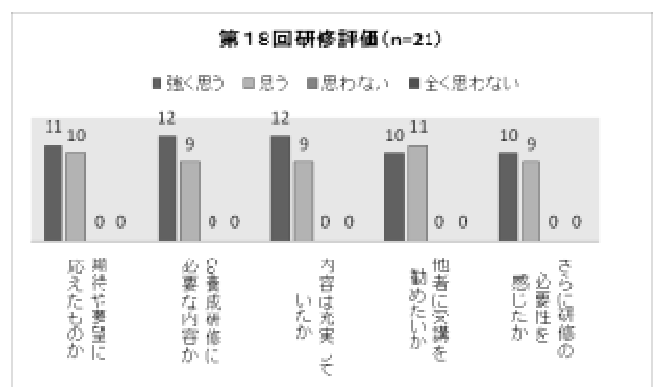
②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

時 間	内 容	講 師 等
14:00～14:10	あいさつ 大阪大谷大学より 大阪府教育委員会より	大阪大谷大学教育福祉学部 学部長 岡 佐智子 大阪府教育委員会事務局 支援教育課 矢木 克典
14:10～14:50	＜演習 1：プレゼンテーションスキル研修＞ 「プレゼンテーション発表」	大阪大谷大学 教育福祉学部 教 授 岡崎 裕子 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
14:50～15:40	＜演習 2＞ 「事例研究 ―見立てから課題設定まで―」 ※アセスメント・教育相談・ プレゼンテーションスキルの総合活用	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸
15:40～15:50	休 憩	
15:50～16:20	＜講義＞「発達障がいの医学的理解」	京都文教短期大学・医師 落合 利佳
15:20～16:40	＜最終回オリエンテーション＞ (1)研修の評価とまとめ（個別の研修計画） (2)研修修了後の連携について	大阪大谷大学 教育福祉学部 准教授 小田 浩伸 講 師 石川 慶和
16:40～17:00	＜研修総括＞ 大阪大谷大学より 大阪府教育委員会より 研修修了証・事務連絡等について	大阪大谷大学教育福祉学部 岡崎 裕子・小田 浩伸 大阪府教育委員会事務局 支援教育課 矢木 克典

④研修評価

総合的な実践演習として、グループでの事例検討協議を実施した。実態把握とともに検査結果を解釈し、その結果を授業や指導にどう活かしていくかについて、演習形式で討議を深めた。また、発達障がいの医学的理解について、外部講師を招き、講義を行った。コーディネーターとして必要な活動をチームで考えて実践し、評価していく重要性を確認した。研修評価アンケートと感想を総合すると、演習・討議の中で意見交換することによって、新たな視点でとらえることができるようになり、チームアプローチの大切さを実感したことや、地域における具体的な支援として展開していきたい



等が挙げられた。

(2) 研修の成果

専門性の高い小中学校と特別支援学校の特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、アセスメントスキル、巡回相談スキル、プレゼンテーションスキル、教材作成スキルの4つのスキル習得を機軸とした実践的な研修カリキュラム開発のための計18回の研修を行った。

研修成果について、①4つのスキルアップについての成果、②専門性の高いコーディネーター養成研修としての成果、③コーディネーター間のネットワークづくりとしての成果、④大学と大阪府教育委員会との連携についての成果、⑤平成19、20年度の2年間における特別支援教育コーディネーターアドバンス研修の総括、の観点から報告する。

①4つのスキルアップについての成果

アセスメントスキル研修については、「実施スキル→解釈スキル→指導に活かすスキル」の一連のスキルアップを前提に取り組んだ。実施スキルについては、これから検査スキルを学ぶ初心者への指導・助言の役割を担う実習研修を体験したことで、改めて検査マニュアルを詳細に読み、間違いやすい部分を再確認した等、今までと違った視点からさらなる検査スキルアップができたという感想が多く得られた。これらの感想は平成19年度の受講者と同じであり、本研修受講者のような一定の検査スキルと経験を有した人の研修内容としては、単にスキルアップ講習よりも指導・支援を実際に行う実習が有効であることが再確認された。また、解釈から指導に活かす（指導計画への展開）スキルについては、日常的なケース会議の中で互いにスーパーバイズをし合う機会や、意見を交換する機会を多くつくっていくことの重要性が示された。

巡回相談スキル研修については、多くの受講者が小中学校への巡回相談は経験していることから、保育所、幼稚園及び高等学校への巡回相談実習の機会を多く提供した。小中学校とは違って、特別支援学級がない保育所や幼稚園、高等学校への巡回相談実習では、通常の学級での特別支援をどう進めていくかが大きな課題であり、その中核になるのが「わかる保育・

授業」であることを受講者全員で確認できた。これは、小中学校における特別支援教育の基本でもあり、授業（保育）改善こそが大きな課題であることが示された。特に、高等学校への巡回相談実習においては、小中学校と高等学校との連携の在り方、特別支援学校と高等学校の連携（支援）の在り方について、多くの意見交換ができたことが収穫であった。特別支援学校のセンター的機能として高等学校が求める支援としては、就労支援のノウハウとソーシャルスキル支援に関するニーズが大きいことも理解でき、今後への具体的な方策に繋がる有益な研修機会となった。

巡回相談研修における報告書の作成については、様式や必要な内容、個人情報扱い等に関する一定のガイドラインの必要性も示されたことから、今後の課題として検討していきたい。

プレゼンテーションスキル研修については、受講者が市町教育委員会主催の特別支援教育研修（コーディネーター養成研修）、校内研修、PTA研修等を担当することを想定して、研修に使うプレゼンテーションスライドや配付資料を作成すること、そしてその際にわかりやすく解説・説明・発表するプレゼンテーションスキルを身につけることを目的として計画した。演習課題①（校種別紹介）、②（障がいの理解と支援）の企画・作成までの経過においては、各担当グループのメンバーが研修日以外に集まって検討・作成したり、メールでのやりとりの中で作成したり等、自主的・積極的な研修として進められた。そして、何度かの修正の結果、演習課題①②ともに視覚的に興味を引きつけるわかりやすい工夫ができていた。さらに、このスキル研修で学んだ「動画や音声の取り込みスキル」を活用して教材が作成される等、本研修内容の効果が即時に確認された。

プレゼンテーションスキル研修を特別支援教育コーディネーター養成研修に組み込んでいる例は全国的にも少ないと思われるが、これからのコーディネーターには、「いかにわかりやすく（教員や保護者、子どもたちに）説明できるか」というスキルが求められることから、このスキル研修はアドバンス研修には欠かせない内容になっていくものと考えている。

教材作成スキル研修については、今年度新たに設定した研修機軸である

が、実際の場面ですぐに活用できることから、受講者の期待や関心はたいへん大きかった。特に、演習で作成した視覚教材作成（①スケジュール表、②コミュニケーションボード）については好評で、さっそく同じ視覚支援教材の作成演習を市町のコーディネーター養成研修で伝達実施した受講生が複数いた。その受講者からは、教材作成と支援が連動していることから、教材作成は特別支援教育の啓発にも効果的であるとの意見が得られた。

また、各自がそれぞれで作成・活用している教材や資料（国語の漢字支援プリント、算数の計算プリント、声の物差し、ポイント提示教材等）を紹介し合ったことも、たいへん有効なアイデアや情報交換になった。

教材スキル研修は、今後もバージョンアップした研修内容へと発展させていきたい。

②専門性の高いコーディネーター養成研修としての成果

本研修受講者 23 名中、16 名（70%）は、すでに特別支援教育コーディネーターとして学校や市町域でのリーダー的役割（リーディングスタッフ）を担っている教員であった。他の 7 名（30%）についても、次期のリーダー的役割を期待されている教員であり、受講者すべてが一定の専門性を有している段階からのスタートであった。そのため、それぞれの研修目的が明確で、研修に対する意識が高かったことから、研修計画の P-D-C-A、全 18 回の多彩な研修内容への対応、研修課題への取組（個別課題、グループ課題等）等の展開がスムーズにできたものと考えられる。また、このように一定の専門性を身につけた教員の集まりであったことから、演習や協議形式の実践的な研修では活発な意見や情報交換ができて、相互に刺激し合うスキルアップ研修になったものと考えられる。

このように特別支援教育コーディネーターとしての一定の経験と専門性をすでに身につけている教員が本研修の受講を希望している理由としては、コーディネーターとしての活動において、日々多くの難題に直面しながら、さらに専門性を高めていく必要性を実感していることによるものと考えられる。そのニーズを満たす研修や助言者が少なく、コーディネーターとしてベテランになればなるほど、活動の行き詰まり感を感じているのが現状と考えられる。こうした理由から、より専門性を高める「アドバンス研修」

のニーズと役割はさらに大きくなるものと考えられる。特別支援教育のさらなる発展を支える研修として、今後も寄与していきたいと考えている。

③コーディネーター間のネットワークづくりとしての成果

受講者の多くは、すでにコーディネーターとしての活動を展開していることから、学校や地域を越えて、困ったときや悩んだときに相談できるコーディネーター間のネットワークづくりを求めている。つまり、相談し合える同志の存在を求めていることから、本研修で構築された受講者 23 名のネットワークの意義はたいへん大きなものと考えられる。実際に、受講者の中ではこの人間関係の拡大と構築が大きな研修成果であったという感想が多く聞かれている。

④大学と大阪府教育委員会との連携についての成果

本学と大阪府教育委員会と連携した「アドバンス研修」実施が 2 年目となり、次の点が連携の成果として挙げられる。

○国や大阪府の施策や課題に対応した内容を適宜プログラムに追加することができた。例えば、学校や地域で実施することを想定した「研修プログラムの企画・立案研修」や、「個別の教育支援計画の作成と活用に関する「情報提供」等が挙げられる。

○毎回の研修に教育委員会指導主事等が参加されていたことにより、本研修で取り組んだ内容を他の研修でも取り入れていく等、研修内容の提供や情報交換が有機的にできた。

○幼稚園や高等学校等への巡回相談における実際の教育場面を通して、課題への共通認識ができた。

○昨年度研修修了者の中から、本学学生の授業にゲストティーチャーとして講義や実践紹介をしていただく機会を設定できた。学生にとっては、教育理論と実践をつなぐ貴重な経験となっている。また、研修修了者にとっては、わかりやすい説明をするというプレゼンテーションスキルの実践の場にもなることから、こうした連携協力をさらにすすめていきたい。

⑤平成 19、20 年度の 2 年間ににおける特別支援教育コーディネーターアドバンス研修の総括

2 年間のモデルカリキュラム開発を総括すると、1 年目で研修内容を試行し、その成果と反省から 2 年目にむけてプログラムを改善して新たに進めてきた（本文 2 ページ目に記載）。

本アドバンス研修の特徴としては、一定の専門性を有しているコーディネーター経験者を対象にしたことから、演習・実習・協議の内容を多く設定できたことにあると考えている。そのため、実践にすぐに役立つ内容の提供や、さまざまな経験や立場の違いからの情報交換、研修内容と実践への連動が効果的に進んできたものと考えられる。特に、プレゼンテーションスキル研修は、従来の研修に例のない内容であったが、この 2 年間の取組の中で、アドバンス研修（上級者の研修）には不可欠な内容であることを確信できた。プレゼンテーションスキル研修は、モデル研修プログラムの中軸として、重要な情報発信になると考えている。

次に、研修希望者の予想以上の多さについてである。1 年目（平成 19 年度）は特別支援学校のコーディネーターのみを対象とし、2 年目（平成 20 年度）は小中学校のコーディネーターも含めたことに留まらず、特別支援学校からの推薦（受講希望者）が倍増し、各市町村教育委員会からの推薦（受講希望者）も予想を大きく上回る人数が挙げた。そのため、必然的に次年度研修に移っていただくことを学校や教育委員会にお願いすることになった。こうした経緯から、本モデルカリキュラム開発の委嘱は今年度までで修了するが、研修は来年度も継続実施していくことになっている。専門性の高いアドバンス研修のニーズの高さが実証されたと考えている。

以上のことを踏まえ、大学と教育委員会との連携から、特別支援教育のさらなる発展に寄与するアドバンス研修の実施や位置づけの仕方について検討していきたい。

☆「キーワード」

小中学校 特別支援学校 特別支援教育コーディネーター、

コーディネーターアドバンス研修、巡回相談スキル、アセスメントスキル、

プレゼンテーションスキル、教材作成スキル

☆「人数規模」

A. 10名未満

B. 11～20名

C. 21～50名

D. 51名以上

☆「研修日数（回数）」

A. 1日以内
(1回)

B. 2～3日
(2～3回)

C. 4～10日
(4～10回)

D. 11日以上
(11回以上)

＜別紙１＞ 平成 20 年度盲・聾・養護学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修

回	日 程	研修内容	講師等
1	5 月 26 日(月) 14:00～17:00	＜事前オリエンテーション及び個別の研修計画の作成＞ ①アセスメントスキルコースについて ②プレゼンテーションスキルコースについて ③教育相談（巡回相談）スキルコースについて	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
2 ・ 3	6 月 16 日(月) 6 月 24 日(火) 7 月 1 日(火) 9:00～17:00	＜教育相談（巡回相談）スキル研修(1)＞ * 幼稚園への巡回相談実習（大学教員に同行） ・事前準備と情報分析、事例検討の進め方 ・巡回相談報告書の作成、アスターケアの在り方等	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
4	7 月 15 日(火) 14:00～17:00	＜プレゼンテーションスキル研修(1)＞ ①プレゼンテーションの意義・活用・倫理（講義） ②プレゼンテーションの基礎・応用スキル（演習） ③プレゼンテーションの作成演習（課題の提供）	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
5 ・ 6	8 月 19 日(火) 9:00～17:00	＜教材作成スキル研修(1)(2)＞ ①教材づくりの考え方とその実際 ②視覚支援教材の作成演習（スケジュール表・コミュニケーションノート等） ③授業に役立つ資料・プリントの工夫・開発・情報交換	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
7 ・ 8	8 月 27 日(水) 9:00～17:00	＜アセスメントスキル研修(1)＞ ①アセスメントの基礎理論（行動観察、情報収集、検査法） ②WISC-Ⅲ検査法の実際と結果解釈について ③検査を実施した事例の総合解釈	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
9 ・ 10	8 月 28 日(木) 9:00～17:00	＜アセスメントスキル研修(3)＞ ①K-ABC 検査法の実際と結果解釈について ②検査を実施した事例の総合解釈 ③個別の指導計画への活用	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
11	9 月 1 日(月) 14:00～17:00	＜実践演習研修及び本カリキュラムの中間振り返り研修＞ ①ケース会議の進め方（模擬校内委員会）と協議 ②特別支援教育コーディネーター研修プログラム企画・立案 ③今までの研修内容と今後の研修内容の在り方	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
12	10 月 6 日(月) 14:00～17:00	＜プレゼンテーションスキル研修(2)＞ ①プレゼンテーション演習と協議（模擬：校内研修） ②プレゼンテーション演習と協議（模擬：外部講師研修） ③プレゼンテーション演習と協議（模擬：発達障害研修）	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
13 ・ 14	11 月 18 日(火) 9:00～17:00	＜教育相談（巡回相談）スキル研修(2)＞ * 高等学校への巡回相談実習（大学教員に同行） ・事前準備と情報分析、事例検討の進め方 ・巡回相談報告書の作成、アスターケアの在り方等	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
15 ・ 16	12 月 26 日(金) 9:00～17:00	＜プレゼンテーションスキル研修(3)＞ ①プレゼンテーションの実際（準備から当日まで） ②プレゼンテーション演習（効果的な方法・応用等） ③プレゼンテーション教材(スライド・コンテンツ)の共有 CD 化	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
17	1 月下旬 14:00～17:00 (複数回実施)	＜教育相談（巡回相談）スキル研修(3)＞ * 保育所・幼稚園、小中学校または高等学校への巡回相談実習 ・事前準備と情報分析、事例検討の進め方 ・巡回相談報告書の作成、アスターケアの在り方等	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
18	2 月 17 日(火) 14:00～17:00	＜総合事後オリエンテーション及び個別の研修計画の評価＞ ①プレゼンテーションスキル研修（発表演習） ②総合スキル活用研修（グループによるケース会議演習） ③研修評価とまとめ（自己目標の評価と今後の課題） ④研修終了後の連携の在り方と研修総括	大阪大谷大学 教育福祉学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等

個 別 の 研 修 計 画 (1) : 実 例

名 前	＊ ＊ ＊ ＊ ＊	所 属	大阪府立〇〇〇支援学校
-----	-----------	-----	-------------

スキル	各 ス キ ル に お け る 自 己 課 題
アセスメント スキル	★WISC-Ⅲ、K-ABC の解釈スキル、及びその結果をふまえて個別の指導計画 へ活用する力の向上（発達障がいや肢体不自由の子どもを検査結果から） ★さまざまな障がいのある児童生徒を対象とした実態把握スキルの向上
プレゼンテーショ ン スキル	★パワーポイント、プロジェクター等の操作・活用スキルの向上 ★校内もしくは小中学校等の研修で「発達障がいの理解と支援」等について わかりやすく伝えるスキルとわかりやすい資料を作成するスキルの向上
巡回相談（教育相 談）スキル	★幼稚園・小中学校・高等学校等への巡回相談実習 さまざまな校種の巡回相談実習 ★地域の巡回相談を担当するための相談スキルの向上 （事前準備と情報分析、担任・保護者等への対応、巡回相談報告書の作成）
教材作成スキル	★子どもの実態を把握を基に、指導・支援に役立つ教材作成スキルの向上 ・視覚支援教材（絵カード、スケジュール表等）の作成 ・聴覚刺激が優位に高い児童に対する有効な教材の開発

本研修における重点課題・目標・内容・評価	
重点課題 （優先順位） ◎・○・△	（ ◎ ）アセスメントスキル （ ○ ）プレゼンテーションスキル （ ◎ ）巡回相談（教育相談）スキル （ △ ）教材作成スキル
研 修 目 標	★校内や小中学校等で相談を受けた事例に対し、場合によってはWISC-Ⅲ等 の検査を実施し、事例検討会等を通して、担任等に適切なアドバイスがで きるようになる。
研 修 内 容	★校内や小中学校からの相談を積極的に受ける ・ WISC-Ⅲ等検査の依頼の場合 →検査の実施→検査結果の解析→ケース会議→担任が作成する「個別 の指導計画」への助言 ・ 事例相談の場合（行動観察、担任等からの聞き取り→的確なアドバイス
自己評価 の観点 （評価の実施時期）	・ WISC-Ⅲ等の検査結果を第三者に適切に説明できたか。 ・ 検査を実施した後、担任が作成する「個別の指導計画」に対して適切な助 言ができたか。 ・ 小中学校からの相談を受け、ケース会議等で適切に説明、助言ができたか。

個別の研修計画(2): 実例

日時	研修記録(研修内容・場所・自己評価等)
6月*日(*) *日(*) 13:20~14:20	本校中学部生徒相談: 校内支援 内容……担任の要望に基づいてWISC-Ⅲを実施 課題……授業の関係で2日間に分けたが、日によって体調が違ったことから、できるだけ一日で検査を終える工夫が必要。校内支援が可能な時間帯の設定と調整が必要。
6月*日(*) 16:00~17:00	本校中学部生徒相談: 校内支援 内容……WISC-Ⅲの結果報告(学年担任団とケース会議) 課題……分析表を用いて報告したものの、具体的な支援方法について、的確な助言が少ししかできなかったことが課題である。
7月*日(*) 13:30~14:30	〇〇〇市立〇〇〇小学校: 研修講師 内容……特別支援教育の概要と通常の学級での支援方法について 課題……講演依頼の際、テーマが幅広く、内容を深めることができなかった。 学校が必要としている情報を事前に詳しく知っておく必要がある。
7月*日(*) 14:00~18:00	本校夏期公開講座: 事例発表者 内容……WISC-Ⅲ検査に基づく事例検討会 成果……昨年度検査した事例も含めて、府教育センターの指導主事を招いて校内で検討することができ、担任からも検査後の取り組みを聞くことができた。 課題……知的な遅れがある子どものために年齢補正した上で、分析できる力が必要である。
8月*日(*) *日(*) 14:00~17:00	本校夏期公開講座: 講師 内容……WISC-Ⅲの概要説明と検査スキルの実際 課題……検査の手順を説明し、模擬実施する場合の時間配分を考える必要がある。 解釈の仕方について、具体的な事例をあげる必要がある。
9月*日(*) 16:00~17:15	〇〇〇市立〇〇〇小学校巡回相談 内容……校内支援委員会への参加(通常学級担任、管理職、コーディネーター、保護者等) 成果……小学校内での課題が明確になった。 課題……児童の様子は紙面と聞き取りのみの情報であったが、それだけでも、気になる点を見つけられる力が必要である。
10月*日(*) 14:30~17:15	〇〇〇市立〇〇〇小学校巡回相談 内容……授業参観、通常の学級担任との話し合い 成果……通常の学級でできる支援方法を考えることができた。当面のねらいができた。 課題……保護者にも支援方法を共通認識してもらう必要がある。 事前に受けたことのある検査の結果を知る必要がある。
12月*日(*) 16:00~17:30	〇〇〇市立〇〇〇小学校巡回相談 内容……通常の学級担任との話し合い 成果……検査結果を分析したものを解説することにより、通常学級の担任が本児の特徴を再認識することができた。 課題……保護者と共通理解したうえでのねらいをはっきりさせる必要がある。

個別の研修計画(3): 実例

【研修目標がどの程度達成されたかについての評価】

- ・WISC－Ⅲの検査は今年度、校内2事例のみの実施であったが、ケース会議や事例検討会を通して、子どもの特性を伝えることはできた。校外の事例については、結果の分析・解釈を通して、通常の学級担任に支援内容も含めて説明した。その中で、人に説明することの難しさを実感した。
- ・検査結果の説明から「そんなところがある！」と担任が振り返るところまではできたが、個別の指導計画まで見通して助言できたのかどうかは不確かであるし、これからの課題である。
- ・小学校からの相談では、保護者を交えて話をしたのが1回だけだったため、自分の助言内容がうまく校内で機能しないことが多かった。集団の中でできる支援について適切な助言ができなかった。

【研修(1年間)を振り返って成果がみられたこと】

- ・検査結果やプロフィールという限られた情報から児童・生徒がより困っている点を見つけ出し、優先目標までつなげるというプロセスについての流れを理解することができた。また、アセスメント研修の際、判定にこまる事例について協議することにより「この検査は何を見るためのものなのか？」を再確認することができた。
- ・パワーポイントでプレゼンテーションをしたことがなかったが、この研修において学ぶことができた。その中で、資料を作るだけでなく、何を伝えるのかを明確にしないと講師としてうまく伝えられないということがわかった。
- ・幼稚園や高校といったふだん体験できない校種への巡回相談を経験でき、貴重なものであった。特に幼稚園の巡回相談では、観察→ケース会議といった流れの中で、集団の中でできる支援ということをしっかり考えることができた。また、いろいろな人の目で子どもを見ていく重要性にも気づいた。
- ・教材作成スキルについては、時間的には少なかったが、研修に参加しておられる多くの先生方のすばらしい教材にふれることができ、大いに参考となった。

【研修全般についての評価】

- ・研修を受ける日のみならず、年間通して研修が続いているという感じだった。それぞれの研修内容についてそこだけでなく、校内・校外での実践に役立ったので、とても有意義であった。また、自分の実践について振り返る機会も設けていただけた。
- ・自分自身で目標をたてた部分については、研修を受ける際にも目的意識を持って取り組めたので、大いに役立った。

【今後の課題と展望】

- ・検査やその分析ができ、ある程度結果を伝えることはできても、個別の指導計画につながるようなことを助言できるとは、まだまだいい難い。現場での実習もつんでいき、的確な助言ができるようにしたい。
- ・小学校等への巡回相談を通して、「通常の学級でできる支援」について学んでいきたい。

別紙3 Co 研修プログラム作成

平成〇〇年度（初任者）特別支援教育コーディネーター研修計画

1. 目的 今年度初任の特別支援教育コーディネーターとなる教員の専門性向上を図り、各市町村における特別支援教育コーディネーター育成に資する。
2. 対象者 初任の特別支援教育コーディネーター 100名
3. 研修内容等

回	日 時	研 修 内 容	講 師 等
1	4月 日() 午後3:40～5:15	特別支援教育の展望と課題 ・ 特別支援教育の現状と課題 ・ 特別支援教育コーディネーターの役割 [講義]	〇〇大学 教授 * * * * 氏 〇〇教育委員会指導主事
2	6月 日() 午後3:40～5:15	発達障がい理解と支援 ・ 発達障がいの特性と理解 ・ 支援の方法 [講義]	〇〇大学 医師 * * * * 氏
3	7月 日() 午前9:00～5:15	アセスメントの方法について ・ 幼児・児童・生徒の観察法 ・ 心理アセスメントの解釈等 [講義・演習・研究協議]	〇〇教育委員会指導主事 〇〇立特別支援学校教員
4	8月 日() 午後3:40～5:15	個別の教育支援計画作成と校内支援体制の構築について ・ 個別の教育支援計画の作成にあたって ・ 校内委員会のあり方 [講義・研究協議]	〇〇教育委員会指導主事 〇〇立特別支援学校教員
5	10月 日() 午後3:40～5:15	教育相談の役割 ・ 特別支援教育への保護者の願い ・ 教育相談の目的と心得 [講義]	〇〇市「* * * *」親の会 会長 * * * * 氏 〇〇教育委員会指導主事
6	12月 日() 午後3:40～5:15	特別支援教育コーディネーターの実際 ・ 巡回相談の活用 ・ 校内委員会の実際 [実践報告・研究協議]	〇〇教育委員会指導主事
7	2月 日() 午後3:40～5:15	関係機関とのネットワークについて ・ 地域資源の活用、連絡・調整 ・ 研究協議（まとめ） [講義・演習・研究協議]	医療、福祉、心理関係担当者 〇〇立特別支援学校教員 〇〇教育委員会指導主事

4. 場所 〇〇市教育センター

別紙4 H20小中学校及び支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修(第 回)の評価アンケート

この評価アンケートは、本研修の実施目的である「モデルカリキュラム開発プログラム」の参考にするものです。プログラムをさらに有意義なものにするための評価として、ご意見をいただければ幸いです。

記入者：_____

1 第2回の研修内容は、あなたの期待や要望に応えたものでしたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

2 この研修内容は、特別支援教育コーディネーターの養成研修に必要な内容と思いますか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

3 研修の内容は充実していましたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

4 この研修内容であれば、他の人に受講を勧めたいと思いますか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

5 この研修で得たことを、今後どのようなことに生かしますか。

ア. 地域支援活動 イ. 授業 ウ. 校内支援体制

エ. 自分の研究 オ. 特にない

<具体的に記述してください>

6 この研修内容を通して、さらに研修を積み重ねていく必要性を感じましたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

7 この研修内容をさらに有意義にしていくための工夫として、考えられることを具体的に記述してください。

8 その他(自由記述)

【問い合わせ先】

大阪大谷大学

教育福祉学部

〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-1-1

TEL 0721-24-0381